

平成26年蔵王町議会定例会3月会議が開催されるにあたり、平成26年度の町政運営に対する私の基本的な考え方を申し述べ、議員の皆様を始め、町民の皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

さて、時のたつのは早いもので、私が町長に就任して10年目という節目の年を迎えることになりました。

この間、町政運営に対し、いろいろとご指導、ご協力を賜りました議員の皆様、町民の皆様に、心より感謝申し上げますと共に、今一度初心に帰り、町民の皆様の負託に応えていきたいという決意を新たにしているところであります。

議員の皆様のご理解とご協力、そして温かいご支援をいただき、町政が順調に執行されますことを切にお願いを申し上げます。

さて、平成20年度からスタートした「第四次蔵王町長期総合計画」は、平成26年度で7年目を迎え、仕上げの段階が近づいてきております。引き続き、「後期基本計画」に掲げた各種施策を計画的に実施し、基本理念として掲げている「町民が主役、地域が主体のまちづくり」を目指していきたいと考えております。

次に、防災・減災対策について申し上げます。

「東日本大震災」から、間もなく3年を迎えることとなりますが、本町では、この震災を教訓に、より一層災害に強い「安全・安心なまちづくり」を目指し、各種防災・減災対策を展開してきたところであります。

しかしながら、去年は全国各地で、台風や「ゲリラ豪雨」による大規模災害が相次ぎ、特に昨年

10月に発生した台風26号では、東京都大島町において記録的な大雨を観測し、人的被害を含む大規模な災害が発生しました。

また、本年2月には、本町においても、記録的な大雪による集落の孤立、農業への甚大な被害などが発生しました。

加えて、本町では、大震災後の火山活動にも十分注意を払う必要があり、こうした多岐にわたる災害への備えを考えたとき、その対策の難しさを痛感したところでもあります。

しかしながら、こうした災害の一つひとつを教訓に、町民の生命、財産を守っていくことは、私の大きな使命でありますので、今後とも関係機関と協力し、町民の英知を結集しながら、各種防災・減災対策に取り組んでいきたいと考えており

ます。

なお、宮地区については、指定避難所としてい
る「宮地区公民館」の避難場所が2階であるため、
高齢者等の利用に不便があるほか、年次計画で配
備している「災害用備蓄資機材」の保管場所がな
いなどの問題が浮上しておりますので、新たな指
定避難所について、できるだけ早い時期に、土
地・建物の取得費、改修費などの予算を計上し、
早急に整備していきたいと考えております。

また、県内の津波被災地においては、職員不足
等により、震災からの復興がなかなか進まない状
況にありますので、その支援を行うため、新年度
から、山元町と南三陸町にそれぞれ1名の職員を
派遣することにいたしました。

次に、本町を取り巻く経済情勢について申し上

げます。

国政においては、安倍政権が誕生してから1年余りが経過しました。この間「アベノミクス」効果などにより、国全体の景気は、長い間のデフレを脱却し、回復基調に向かっているのではないかと感じております。

本町においても、こうした情勢に加え、震災復興需要などにより、一部業種においては業績が堅調に推移しており、雇用情勢も改善されつつあるのではないかと考えております。

しかしながら、こうした中にあっても、依然として、厳しい経営を余儀なくされている企業や個人事業主が、数多くあることも事実であります。

更に、本年4月からの消費税率の引き上げにつ

いては、持続可能な社会保障の仕組みづくりのため、やむを得ないものとはいえ、町民の皆様の暮らしにも大きな影響を及ぼすほか、こうした地域産業への悪影響も懸念されるところであります。

また、本町の基幹産業である農業については、T P P、減反政策における補助金の廃止など、国の政策の見直しに伴い、非常に大きな転換期を迎えております。

本町基幹産業のもうひとつ、観光については、震災直後に比べて持ち直しているとはいえ、依然として福島原発事故の影響は消えておらず、大変厳しい状況が続いていると感じております。

本町においては、こうした経済情勢の中、町民の皆様が安心して暮らすことができるまちづくりを目指し、関係機関と協力しながら、引き続き

各種経済対策や、高齢者、障がい者、子育て世代などの支援に努めていきたいと考えております。

次に、平成26年度を含めたこれからの財政運営について申し上げます。

まず、町の借金である地方債の残高は、私が町長に就任した平成16年度から、平成26年度までの10年間で、149億円から96億円へと、53億円減少する見通しであります。

一方、町の一般会計の基金は、この10年間で11億円から15億円へと、4億円積み増しすることができました。

このことは、持続可能なまちづくりのため取り組んできた「行財政改革」に対し、議員の皆様、町民の皆様から多大なるご理解、ご協力をいただいた「^{たまもの}賜」であり、皆様に改めてお礼を申し上げ

げます。

また、財政健全化法に定める「実質公債費比率」などの指標も年々数値が改善されており、現状では「健全財政」が維持されているのではないかと考えております。

しかしながら、急速に進む少子・高齢化に伴い年々増加する社会保障費、高度経済成長期に数多く建設された公共施設の維持補修や更新への備え、ここ数年、全国各地で発生している記録的な大雨や大雪、更に地震などの災害への備えなど、「安全で安心な、住みよいまちづくり」を進めるためには、避けることができない財政負担が増大していくと考えられます。

また、蔵王病院・刈田総合病院の補助金・出資金などは、わが町の財政に少なからず影響を与え

ているところではありますが、地域医療や二次医療・救急医療の中核的病院を維持していくことはとても重要なことと思っております。

仙南地域広域行政事務組合では、「(仮称)仙南クリーンセンター」の平成29年度オープンに向け、本格的な建設工事に着手してまいりますので、今後、構成市町の負担が増えることとなります。

また、これ以外の衛生施設も老朽化が進んでおり、近い将来において、建て替えなどに伴う負担が増えてくるのではないかと考えております。

こうした状況で、今後とも町が自立して自らの道を切り開いていくためには、出来る限り歳出を削減し、歳入を確保しなければなりません。

国の財政は、改善されつつあるとはいえ、26年度予算においても、歳入の43%は国債に依存

しているような状況であり、かつての三位一体改革の際、地方交付税の大幅な減額により、わが町を含めて小規模町村は、大きな打撃を受けたことを決して忘れてはならず、町の財政運営は、引き続き厳しい状況にあると認識しているところであります。

このような状況において、行政が取り組んでいくべき課題は山積していますが、「誰もが住んで良かった」と言えるような、安全と安心、そして心豊かに暮らせる、健全で活力ある地域社会を、町民の皆様と行政が一緒になって作っていく、「町民協働のまちづくり」をめざしていくことが、私に課された「大きな使命」であると考えております。

毎年申し上げているところでありますが、私の行政運営は、「第四次長期総合計画」の五つの基

本方針、「心づくり」、「人づくり」、「環境づくり」、「活力づくり」、そして「絆づくり」をまちづくりの基本に、皆様と共に歩んでいこうと思っておりますので、どうか、町民の皆様並びに議員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

次に、平成26年度の当初予算編成にあたり、基本的な考え方を申し上げます。

平成26年度一般会計予算の総額は、前年度に比べて2.7%、1億4,000万円増の54億円としております。

アベノミクス効果や震災復興需要等により、町税収入の増加が見込まれることや、公共事業の財源として「地域の元気臨時交付金基金」を全額繰入したことが、増額になった主な要因であります。

なお、本年度も、主要事業・新規事業を一覧表として添付させていただきましたので参考にして頂ければ幸いです。

次に、主な歳入について申し上げます。

まず、町税では、個人町民税は、雇用情勢の改善が見込まれることから、前年度対比15.3%の増、法人町民税については、震災復興需要等が継続していることから27.9%の増を見込んだところです。

固定資産税については、依然として地価下落傾向が続いていることから、前年度対比1.1%の減額を見込んだところであります。

県税から一定割合が交付される税交付金のうち、地方消費税交付金については、地方消費税の税率が、4月から、現行の1%から1.7%に引き上げられることから、前年度に比べ3,899万8千円(32.0%)の増を見込んでおります。

なお、このうち税率引き上げに伴う増収分につ

いては2, 730万9千円と見込んでおります。

地方交付税については、政府予算案で前年度対比1.0%の減少となっていること、及び本町の町税収入を3.5%増と見込んでいることを考慮し、前年度に比べ2,980万円(1.6%)の減額を見込みました。

各種基金からの繰入については、平成25年度に造成した「地域の元気臨時交付金基金」から、利子も含めた8,419万6千円を全額繰入し、マイクロバス購入費や町道の改良・改修工事の財源として活用していきます。

また、消費税率引き上げに伴う物件費・委託費等の増加に加え、多様化し、増加する財政支出需要に対処するため、財政調整基金からは、前年度と同額の1億7,000万円を繰入することとしております。

次に、歳出予算における主な事業について、第四次蔵王町長期総合計画に掲げる「施策の大綱」ごとにご説明申し上げます。

健やかなまちづくり（保健・医療・福祉）
～みんなが、心も体も健康になる～

まず、健やかなまちづくりに向けてであります。

先ほども申し上げたとおり、国では持続可能な社会保障制度の確立に向け、4月から消費税率の引き上げを実施し、この増収分は社会保障費に全額充てることにしております。

この増収分については、地方消費税交付金、地方交付税として、本町にも配分されることとなりますので、引き続き町の独自施策も含めた、福祉政策の財源として、有効に活用して参ります。

特に、「子育て支援の充実」に向けては、町独自の施策である「すこやか養育助成金」、「乳幼児紙おむつ券助成」、「子ども医療費助成」などの各種施策を継続し、子育て世帯の経済的支援に努めて参ります。

また、中学3年生に対する「インフルエンザ予防接種費用全額助成」に加え、地域の医療機関の協力をいただき、新年度から、小学1年生から中学2年生までの児童・生徒に対しても、自己負担1,000円で「インフルエンザ予防接種」が受けられるようにし、学校内での集団感染の予防に努めていきたいと考えております。

「あったか支援金」、「母子・父子家庭医療費助成制度」についても制度を継続し、ひとり親世帯の経済的支援に努めて参ります。

保育サービスでは、多様化するニーズにこたえ、新年度は、定員150名に対し、166名の乳幼児を受け入れることにしておりますので、保育士等を加配^{かはい}し、十分な受け入れ体制を整えて参ります。

児童館では、本年度は平沢児童館のトイレ改修工事を行い、施設の利用環境を向上させることで、児童の健全育成に努めて参ります。

このほか、各種予防接種や健診事業を継続するなど、より子育てしやすい環境の整備に努めていきたいと考えております。

高齢者や障がい者福祉についても、食の自立支援事業（配食サービス）、介護用品給付事業、障害者地域生活支援事業など、各種支援事業を継続し、よりきめ細かに各種サービスの提供に努めて

いきたいと考えております。

次に、地域医療の充実に向けては、地域の医師会などと連携しながら、休日診療、救急診療の体制を維持すると共に、蔵王病院の体制強化を図り、必要な時に必要な治療を受けることができる医療体制を維持していきたいと考えております。

次に、消費税率の引き上げに伴う、低所得者等の負担軽減対策として実施することとしている、「臨時福祉給付金」、「子育て世帯臨時特例給付金」については、当初予算に必要な予算を計上し、早めに実施体制を整えることで、円滑かつ正確に給付事務を実施したいと考えております。

学び楽しむまちづくり（教育・文化・スポーツ）
～みんなが、生き生きとなる～

次に、学び楽しむまちづくりに向けてであります。

まず、昨年の東北楽天ゴールデンイーグルスのプロ野球日本一に続き、本年2月の「ソチオリンピック」では、本県出身の羽生選手が、男子フィギアスケートで金メダルを獲得し、今なお仮設住宅での暮らしを強いられている数多くの被災者の皆様を含め、私たち宮城県民に大きな感動と希望を与えてくれました。

改めて、「スポーツの持つ力」の大きさを感じたところでもあります。

こうした中、本町では、子どもたちが安心して学ぶことができる環境づくりや、だれもが芸術・

文化、スポーツに親しむことができる環境づくりに、引き続き取り組んで参ります。

まず、学校教育では、すべての児童・生徒が、蔵王町の自然・文化・歴史に慣れ親しみ、創造性と人間性豊かな子どもに育つよう、スキー教室や樹氷観賞会などの体験学習教育を、継続して参ります。

また、特別な支援を必要とする児童・生徒一人ひとりのニーズに適切に対応するため、引き続き「特別教育支援員」9名を配置して参ります。

更に、外国語指導助手による英語教育の充実や学び支援コーディネーター、学校支援員による課外授業、学校図書支援員による学校図書室の機能充実など、児童・生徒の学力向上に向けた取り組みを、継続することにしております。

学校の施設整備では、新年度は、宮小学校の外壁改修、職員室等エアコン設置工事のほか、平沢小学校、遠刈田中学校の照明器具を、LED器具に改良するなど、計画的な施設の維持補修に努めて参ります。

幼稚園については、園児送迎時の安全確保のため、遠刈田幼稚園歩道設置工事、永野幼稚園外灯設置工事などを実施することにしております。

次に、生涯学習では、ふるさと文化会館が本年7月に「開館10周年」を迎えることを記念し、年間を通してコンサートや演芸会など、各種記念事業を実施していく予定にしております。

また、年度当初に「東北楽天球団」と協定し、蔵王球場の愛称を「東北楽天イーグルス蔵王球場」に改め、野球教室開催などで、少年野球や中

学生の部活動の支援に努めるほか、昨年に続き、本年11月に「三遊亭円楽杯ゲートボール交流大会」を開催し、ゲートボール競技の振興と、交流人口の増加を図って参ります。

生涯学習、生涯スポーツ施設については、新年度は、遠刈田地区公民館の屋根・暖房機改修や総合運動公園管理棟トイレ改修工事等を行い、より利用しやすい施設づくりに取り組んで参ります。

更に、B&G海洋センターアリーナについては、観覧席等の増築に着手すべく、設計業務に取り組んで参ります。

美しい快適なまちづくり（環境・生活基盤）

～みんなが、誇りを胸に～

次に、美しい快適なまちづくりに向けてであります。

まず、私たちが先人から受け継いできた「蔵王の豊かな自然」を保全し、次世代に受け継いでいくための基本方針となる「環境基本計画」については、企画審議会、環境基本計画策定委員会などの審議を経て、更に、町民の皆様からパブリックコメントを募^つるなど、現在は詰めの段階を迎えており、新年度の早い段階で策定したいと考えております。

また、蔵王のシンボル「お釜」をはじめとする地質学的遺産について「日本ジオパーク認定」を目指し、新年度も引き続き学術調査に取り組んで

参ります。

地球環境にも配慮した「循環型地域社会」の形成を目指して実施している「住宅用太陽光発電システム設置事業補助金」も、システム設置費用の動向などを考慮のうえ、一部補助内容を変更のうえ、継続していくことにしております。

道路整備では、新年度は、昨年度に続いて「城山線」の改良工事を進めて参ります。

また、湯口線については、新年度から用地の買収に着手し、事業を本格化することにしております。

このほか、地域の元気臨時交付金基金を活用し、生活道路などの改良、維持補修工事の予算を大幅に増額するなど、引き続き安全で快適な道路の維持・整備に努めて参ります。

活気あるまちづくり（産業）

～みんなが、元気になる～

次に、活気あるまちづくりに向けてであります。

まず、福島原発事故に伴う放射能問題は、発電所からの冷却水もれ事故が連日報道されるなど、いまだ収まる気配がなく、風評も含め、わが町の基幹産業である「農業」と「観光」は、今も深刻な影響を受けているところであります。

こうした中、引き続き農産物の安全・安心には万全を期すとともに、空間放射線量や農産物の放射能測定結果を、リアルタイムで公開していくなど、正確な情報開示に努めていきたいと考えております。

このため、新年度も「放射性セシウム吸収抑制

対策事業」を継続して実施するための予算を計上したほか、放射能検査についても、現在の体制を維持することとしております。

また、25年度に実施した「果樹病害虫防除対策事業」については、一定の効果が認められたことから、新年度も果樹農家に薬剤等を配布し、一斉防除を実施していきたいと考えております。

更に、JAみやぎ仙南の「蔵王梨選果場」については、選果システムの^{ちゅうすう}中枢である「光センサー」更新事業に補助を行い、町内産日本梨のブランド化を加速させていきたいと考えております。

次に、深刻化するイノシシによる獣害対策については、新年度において「有害鳥獣解体場」を建設するほか、電気柵設置事業の補助率を1/3から1/2に引き上げ、更に駆除隊員の育成に向け、

「わな免許」取得費用を、全額補助する制度を創設するなどの対策を講じて参ります。

次に、林業関係では、松くい虫に加え、ナラ枯れの被害も拡大しておりますので、新年度においても、引き続き駆除事業に取り組んでいきたいと考えております。

次に、仙南広域農道については、27年4月の全面開通を目指し、新年度は、ガードレールなどの施設や案内板を整備する予定であります。

また、円田2期地区ほ場整備事業については、補完工事等もほぼ完了し、新年度中に換地を行う予定であります。

次に、地域商業の復興支援として、昨年度に続き「プレミアム商品券発行事業」について割増商

品券分の補助を行い、商業振興を支援して参ります。

国の雇用創出事業は、新年度も継続されることになったため、この事業により、直接雇用24名、町内事業所等への委託雇用14名、合計38名の新規雇用を創出したいと考えております。

次に、観光関係では、まず、宮城蔵王こけし館が新年度で、開館30周年を迎えることから、「全国伝統こけしろくろまつり」を、記念事業と位置付け、例年よりも規模を拡大して実施したいと考えております。

また、新年度は、昨年の「仙台・宮城ディストネーションキャンペーン(DC)」に続き、本年4月から6月までを「ポストDC」として、福島県、山形県とも連携し、この期間中に4回目とな

る「日本の蔵王ヒルクライム・エコ2014」や
「仙台真田氏PRイベント」、「大道芸フェスティバル イン とおがった」などのイベントをはじめ、各種キャンペーンを展開し、誘客に努めていきたいと考えております。

共に創るまちづくり (町民参加・安全・行政運営)
～みんなが、一緒に～

次に、共に創るまちづくりに向けてであります。

まず、防災面については、冒頭で述べたとおり、いろいろな自然災害への備えを、なお一層充実する必要性を痛感したところであります。

私は、各種災害対策のうち、長期総合計画に掲げる「自助」、「互助」、「公助」の考え方に基づく「自主防災組織」の活動が、非常に有効だと考えております。

このため、自主防災組織の設立支援補助、指定避難所太陽光発電システム設置補助を継続するほか、なお一層行政区との連携を深め、できるだけ早く町内各地で、自主防災組織の設立を進めていきたいと考えているところであります。

年次計画で配備している「災害対策用備蓄資機材」については、25年度までで、永野、円田地区に配備が完了し、新年度は、遠刈田地区と平沢地区に配備することにしております。

総務部門では、各種行政・教育活動に利用しているマイクロバスは、老朽化し修理が困難になったため、新年度で更新することにしております。

次に、「ウィンドウズXP」サポート終了に伴うセキュリティ対応であります。まず、住民記録、戸籍、税や福祉、医療などの個人情報扱うパソコンは、元々外部ネットワークとは接続しておりません。

これ以外の情報系サーバに接続している業務用パソコンについては、26年度から28年度までの3年計画で、ウィンドウズXP搭載機を更新していくこととしております。

次に、健全財政の維持に向けては、将来の町債繰上償還などに備え、減債基金への積立を継続するほか、歳入になりますが、町債の発行については、将来の実質的な財政負担等も考慮しながら、適正水準を維持していくことにしております。

以上、平成26年度を迎えるにあたりまして、私は、町政の責任者としての覚悟をもって決断し、全力で町政運営に取り組んで参りたいと考えております。

どうか、町民の皆様並びに議員の皆様の、より一層のご理解、ご協力、そしてご支援を心からお願い申し上げます、平成26年度の施政方針といたします。